

2015年(平成27年)
6/4(木)
Thursday

きょうの

発言

戦後60年の2005年から多くの仲間と、熊本県内の太平洋戦争中に多数残された戦跡の状態を丁寧に調べました。

その結果は、共同執筆「子どもと歩く熊本の戦争遺跡」(3巻)で入門編として紹介し、「戦後65年熊本の戦争遺跡」では、その内の84遺跡を図面資料などを追加して知っていただきます。熊本の戦争遺跡の特徴とし

高谷 和生 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長

戦争遺産ガイドマップ

て、次の7項目を挙げる事ができます。①熊本城をはじめ軍都熊本市に集中する軍事施設②九州で3番目に多い旧軍飛行場③陸軍直営となる荒尾市の火薬製造工場④重爆撃機「飛龍」を造った三菱重工業熊本航空機製作所の本工場や多数の学校工場・地下工場⑤本土決戦の足音が迫る中で造られた天草の砲台や特攻艇基地⑥各地に残る空襲被災の被害の歴史⑦朝鮮人や中国人、連合国俘虜労働などの加害の歴史です。

熊日が昨年、12回にわたって連載した「平和を歩く 県内戦争遺産」は戦争遺産をこれらの視点で取り上げ、戦後生まれの記者が実際に足を運び、当時を知る人から証言を引き出した企画でした。読者からも大きな反響があったと聞いています。

戦後70年の今夏、県内に点在する「物言わぬ歴史の証言者たち」に語りかけてもらいたいと思いい、「くまもと戦争遺産ガイドマップ」づくりを進めています。この中に盛り込む遺産は全部で24項目。皆さんと戦争遺産との新たな出会いを願っています。

2015.6.4